

平成24年度日本小児外科学会
第7回定例理事会議事録

日 時：平成 25 年 5 月 29 日（水） 9：00～12：00

会 場：京王プラザホテル本館 4 階 けやき

出席者：田口智章（理事長）、仁尾正記（副理事長）、岩中 督（理事・会長）、濱田吉則（理事・副会長）、葦澤融司、前田貢作、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡（以上理事）、窪田昭男、橋本 俊、土岐 彰（以上監事）、小室広昭（庶務委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計委員長）、渡井 有（財務会計副委員長）
家入里志、杉山正彦（以上庶務委員）、村上 聡、堀口裕輔（事務局）

陪席者：黒田達夫（専門医制度庶務委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第7回定例理事会の議事録署名人は、濱田吉則 理事、北川博昭 理事とした。
2. 平成24年度第6回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

3. 報告事項

田口理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 日本医学会からのチラシ「第 144 回シンポジウム開催案内」を受領した。
- (2) 日本医療機能評価機構からの冊子「ニューズ・レター2013-No. 1-」を受領した。
- (3) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol. 43No. 5」を受領した。
- (4) 難病のこども支援全国ネットワークからの冊子「がんばれ Vol. 138」を受領した。
- (5) 日本医療機器産業連合会からの寄贈本「医機連ニュース第 81 号」を受領した。
- (6) 日本医学会総会 2015 関西から「第 29 回日本医学会総会 2015 関西チラシ」を受領した。
- (7) 日本医学会からの寄贈本「JMJA Vol. 55No. 6」を受領した。
- (8) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレターNo. 155」を受領した。
- (9) 臨床試験医師養成協議会からの寄贈本「臨床試験ベーシックナビ」を受領した。
- (10) 日本外科学会からの通信文「外科専門医認定試験および予備試験日程のお知らせ」につき、理事長より報告された。
- (11) 日本小児科医会からの寄贈本「東日本大震災—小児科医の足跡—」を受領した。

4 審議事項

1) 第50回学術集会について（岩中会長）

岩中会長より報告があり、以下のように了承された。

会 期：2013年5月30日（木）～6月1日（土）

会 場：京王プラザホテル

会 長：岩中 督（東京大学大学院医学系研究科小児外科）

一般演題は684題の応募があり、そのうち84題は英文である。また、評議員会と記念

式典の間に駿河敬次郎先生ご提供の新生児外科に関する当時のビデオを放映する予定であることが申し添えられた。

2) 総会・評議員会進行手順について

田口理事長・小室庶務委員長より、総会・評議員会進行手順について説明された。また、評議員会での議論の都合上、各種委員会報告についてなるべく手短かに報告いただくよう要望された。なお、本年から役員選挙の投票用紙が新しい書式に変更されたことが説明された。

3) 庶務委員会（小室庶務委員長）

小室庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

平成 25 年 3 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,937 名（うち海外 4 名）、評議員 289 名、名誉会員 53 名（うち海外 8 名）、特別会員 62 名（うち海外 1 名）の合計 2,341 名である。

また、平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月までの物故会員は石井瑞弥、矢野博道、里村紀作、森本慎也、堀内藤吾、康 義治、内野純一、堀本 洋、C. Everett Koo、秦 温信各先生の 9 名であることが報告された。

4) 財務会計委員会（吉澤委員長）

吉澤委員長より以下の通り報告・提案され、承認された。

吉澤委員長より、平成 24 年度収支決算報告および平成 25 年度収支予算案につき説明があり、質疑応答の後、了承された。

5) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会報告

北川担当理事より、資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・平成 24 年度（1～12 月）の機関誌論文投稿状況が資料に基づき報告された。
- ・第 48 巻優秀論文について、大橋研介、渡辺栄一郎各会員の論文を理事会に推薦し、承認された。

- ・第 49 回学術集会に際し開催された PSI Japanese Issue Publication Committee において投稿論文 34 編(原著 24 編、症例報告・Surgical Techniques10 編)のうち 14 編（原著 12 編、症例報告 2 編）が採用され、6 編（原著 2 編，他 4 編）が保留とされた。

- ・投稿規定の変更

- 平成 24 年 6 月 20 日改訂→①学生からの投稿を可能とする②ファイルサイズを 1MB 以下から 5MB 以下に増大する③採用された後の電子ファイルから MO(和文規定)floppy disc, MO（英文規定）を除き CD のみとする。

- 平成 25 年 4 月 20 日改訂→①所属機関の表記法の変更 *、** → 1、2 ②文字数、行数の変更 20×20 字/頁 → 32 字×25 行/頁③別冊をすべて有料とした。

- ・電子ジャーナル化

第 49 巻 1 号から J-Stage に掲載され、電子ジャーナルとなった。同時に CiNii への掲載は終了された。第 49 巻 2 号から印刷冊子の会員への送付は希望者に対し有料で行われることとなった。電子ジャーナルのカラーの図、写真の掲載を無料とした。印刷冊子はすべて白黒印刷とすることとなった。ただし、別冊におけるカラーの図、写真は有料で対応する。

- ・ 50 周年記念誌について原稿募集が開始されている。
- ・ 第 5 回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会、シンポジウム (平成 24 年 11 月 21 日) に参加した。
- ・ 査読者への査読依頼方法の変更を行った。

(2) 国際・広報委員会

田口理事長より資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・ 日本語のホームページ更新について

1) 目的

- ① 学会誌の電子ジャーナル化に合わせて HP を使い易いものにする。
- ② 内容・目的に沿った浅い階層レイアウトとして情報に到達し易くする。
- ③ 古い情報の削除・外部リンクの併用により更新作業を容易にする。
- ④ 会員管理システム・検索機能・国際協力の広場などを追加・新設する。

2) ホームページ更新内容

- ① 新しい原稿依頼：国際協力の広場、専門医制度（最新版）、小児外科医ライフスタイル、Q&A など
- ② 削除項目： e-learning、マッチングシステム
- ③ 会員専用ページ内にデータベース、アンケート調査結果の項目を新設してこれまでのデータをまとめて掲載する
- ④ 学術・先進医療検討委員会→改訂して会員ページに移行
- ⑤ 倫理委員会→会員ページの[倫理委員会審査申し込み]へ移行
- ⑥ 教育委員会→[学術集会・セミナー・学会雑誌]→[卒後教育セミナー]へ移行
- ⑦ 倫理・安全管理委員会→アンケート結果は会員ページ[アンケート結果]へ移行、その以外は削除
- ⑧ 悪性腫瘍委員会→[その他の情報]の[悪性腫瘍登録のお願い]へ移行
- ⑨ 国際・広報委員会→削除
- ⑩ 保険診療委員会→削除
- ⑪ 機関誌委員会→[学術集会・セミナー・学会雑誌]へ移行
- ⑫ 小児救急検討委員会→[その他の情報]の[PALS 講習会]へ移行、救急セミナーに関しては[学術集会・セミナー・学会雑誌]の中に[救急セミナー]を新設して移行
- ⑬ 利益相反委員会→[学術集会・セミナー・学会雑誌]の[利益相反に関する指針について]へ移行

3) ホームページ更新作業は、現在コンテンツ移行作業中である。

・WOFAPS報告

1) 北川理事がWOFAPSアジア代表としてローマでのWOFAPS Executive Committee Meetingに出席(2012. 6. 16)した。

2) 2013年WOFAPS理事会が日本小児外科学会学術総会に合わせて5/29京王プラザで行われることになった。

・International Sessionへの提言

Collaboration in education among Asian countriesのセッションでアジア6名+日本1名(窪田)の演者。カンボジアからはDr. Vuthyを招待することとなった。

・途上国支援

1) 学会から国際協力への支援

来年度から市民公開講座の支援を中止して、若い人の旅費援助に使う

2) カンボジア小児外科医療の視察(8.26-9.1、田口、岡松、石井、FIDR)

3) 第6回カンボジア小児外科学会(2012. 11. 22)に田口、窪田、石井、奥山、古沢(九大)池田(九大)が参加。カンボジア国立小児病院にて田口が新生児外科の教育講演

4) 学会運営、人材交流、情報提供、診療支援などを通じて国際協力を進める。

(3) 保険診療委員会

窪田担当理事より以下の通り報告、提案があり、承認された。

・平成26年度診療報酬改定に向けての要望

1) 技術新設：8項目

1位：小児の深鎮静 2位：処置における小児加算

3位：「EDチューブ挿入固定」の新設(処置) 4位：腹腔鏡手術の一括採用

5位：「経皮的卵巣嚢腫内容排除」の新設(処置)

6位：「臍ヘルニアの圧迫療法」の新設(処置)

7位：「短期滞在手術基本料(日帰りの場合、小児全身麻酔の場合)」の新設

8位：先天性食道閉鎖症根治手術(胸腔鏡下)

2) 技術改正：5項目

1位：小児科療養指導料の算定疾患の拡大 2位：胃・食道内24時間pH測定

3位：手術通則14の改正 4位：組織試験採取、切採法 直腸(D417 10)

5位：ストーマ処置料 小児加算

・外科系社会保険委員会連合(外保連)に関する活動

1) 外保連手術委員会

①外保連手術委員会に以下の5つの新規術式を要望し、了承された。

・胃瘻造設術(腹腔鏡下)・胃捻転症手術(腹腔鏡下)・総胆管拡張症手術(腹腔鏡下)

・腸重積症整復術(腹腔鏡下)・先天性食道閉鎖根治手術(胸腔鏡下)

新規術式申請には50例の医材料調査が必要であり、保険診療委員の施設および、以下の8施設に協力していただき、日本小児外科学会が主学会である外保連試案69術式と

今後新規術式として申請を行う可能性がある 14 術式について、合計 401 件の医材料調査をおこなった。

②2011 年 12 月に発行された外保連手術試案 ver 8 を 26 年度診療報酬改定に向けて ver 8.1 への改定作業中。WEB 版は 6 月、印刷物の完成を予定。

③手術試案 ver 8.1 に向けて、手術試案 ver 8 に登録されている術式の医材料調査（調査数が不足と指摘）の要請があり、調査結果のデータを集計し、外保連に提出した。

④外保連手術試案の手術時間が実態と乖離があると厚労省等より指摘があり、外保連手術委員会より実態調査が行われた。

【実態調査方法】

- ・ 依頼施設：3,177 施設（日本外科学会指定・関連施設＋加盟学会専門施設）
- ・ 回答施設：約 700 施設 回答手術：約 23 万件
- ・ 調査対象期間：平成 24 年 10 月、11 月に実施された手術

【調査結果の試案への反映】

n が 20 件以上の手術を対象に、外保連手術試案と調査結果（中央値±標準偏差値×2 分の 1 以外）の乖離があるものを補正対象として、調査結果（中央値+標準偏差値×2 分の 1）の時間に補正。手術試案 ver 8.1 に反映させる。

小児外科手術は症例数が 20 例に達しないものも多く、影響は少ない。

⑤手術委員会コーディングワーキンググループ

手術試案 ver 8 では術式の並び順、小見出しに不備があり、検討・修正を行った。手術試案 ver 8.1 に反映させる。

2) 外保連処置委員会

外保連処置委員会に新規要望し、以下の 10 項目が了承された。

- ・ 臍ヘルニア圧迫療法・経皮的卵巣嚢腫内容除去・小児女子導尿（6 歳未満）
- ・ 小児男子導尿（6 歳未満）・小児女子膀胱留置カテーテル設置、交換（6 歳未満）
- ・ 小児男子膀胱留置カテーテル設置、交換（6 歳未満）・新生児気管内挿管
- ・ 乳幼児気管内挿管・点滴静脈注射（6 歳未満、100ml 未満の場合）
- ・ 点滴静脈注射（6 歳未満、100ml 以上の場合）

これら処置は成人と比べて技術度、処置時間、係る人数が異なる。26 年度診療報酬改定で小児加算が得られるように申請。処置委員会では抑制に関わる人件費は現在認められていない。

3) 外保連検査委員会

①内視鏡における適正な診療報酬に関するワーキンググループが発足

座長：藤城光弘先生（日本消化器内視鏡学会）副座長：高橋典明先生（日本呼吸器内視鏡学会）委員に小高明雄先生（現在保険診療副委員長、外保連手術委員）を推薦
内保連と外保連が合同で、内視鏡を用いた検査、処置、手術を対象に適正な診療報酬かを検討するワーキンググループ。

②生体検査コーディングワーキンググループが発足

座長：土田敬明検査副委員長（日本レーザー医学会、日本呼吸器内視鏡学会）委員に

大橋祐介先生（現在外保連検査委員）を推薦

（４）教育委員会

松藤担当理事より以下の通り報告され、承認された。

・卒後教育セミナーについて

- 1) 第 28 回日本小児外科学会卒後教育セミナーを第 49 回学術集会中に開催した。
- 2) 第 29 回日本小児外科学会卒後教育セミナーは、平成 25 年 6 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、本学会学術集会後、京王プラザホテル（初日）、新宿 NS ビル（二日目）で開催する。

・日本小児外科学会内視鏡手術セミナーについて

- 1) 平成 24 年度内視鏡手術セミナーを第 49 回学術集会中に開催した。
- 2) 平成 25 年度内視鏡手術セミナーを、平成 25 年 6 月 1 日（土）第 29 回日本小児外科学会卒後教育セミナーの前に京王プラザホテルで開催する。

本年度から、日本小児外科学会事業として、日本小児外科学会教育委員会主催、日本小児内視鏡外科・手術手技研究会共催で行うこととなった。

・日本医学会分科会医学用語委員会（平成 24 年 12 月 4 日、日本医師会小講堂）

以下項目について説明があった。

- 1) 日本医学会医学用語辞典と各分科会用語辞典の調整
- 2) 日本医学会医学用語辞典和英表記
- 3) 第 4 回日本医学雑誌編集者会議から活動内容の説明

・全国大学医学部、医学系大学に対する小児外科卒前教育に関するアンケート調査
総合調整委員会から、依頼されたアンケート調査を行った。

・困ったときの相談掲示板

学会 HP を利用した運用を目指し、技術的・倫理的問題について関係各位と協議を行ったが、具体的な運営方法の結論を出すまでには到達しなかった。

（５）悪性腫瘍委員会報告

前田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

・小児の外科的悪性腫瘍の登録と追跡調査の集計分析について

- 1) 2011 年登録症例の全国集計の分析について

「小児の外科的悪性腫瘍，2011 年登録症例の全国集計結果の報告」として学会誌 49 巻第 1 号に掲載し、J-Stage でも自由に閲覧できる。また、この結果の一部は学会ホームページに掲載する予定である。

- 2) 追跡調査（2001-2005 登録症例）の集計、分析について

学会誌 49 巻 5 号に掲載を予定しており、原稿の最終締め切りが 6 月初旬となっている。今後のスケジュールとして、第 3 回の委員会の審議事項を踏まえて修正を行い、4 月 29 日までメール審議による意見交換を行った。現在、解析担当委員は最終版を作成し、委員長へメールにて送付した。委員長が内容を取りまとめ、第 50 回日本小児外科学会総会での本委員会最終審議し完成とする予定である。

- ・登録率について

登録数は神経芽腫群腫瘍 88 例, 腎悪性腫瘍 47 例, 肝 悪性腫瘍 46 例, 胚細胞腫瘍 159 例, 横紋筋肉腫 27 例, その他の腫瘍 150 例で総計 517 例を 94 施設(北海道 8 施設, 東北 5 施設, 関東 12 施設, 東京 8 施設, 神奈川 5 施設, 甲信越 5 施設, 東海・北陸 16 施設, 近畿 14 施設, 中国・四国 8 施設, 九州 13 施設)から登録された(昨年と同施設数)。

- ・学会ホームページへの掲載について

1) 「小児がん登録推移と登録のお願い」に, 2011 年症例を登録頂いた施設名を掲載予定である。

2) 「腫瘍登録症例数の経年変化」に掲載されている 2002 年～2010 年登録症例に 2011 年登録症例を追加予定である。

- ・腫瘍記載用紙の改訂について

病期分類、病理分類について、分析担当者の原案をもとに各腫瘍ごとに検討が行われた。一部においては最近の国際基準やグループスタディで使用される分類と解離が見られるため改訂作業を行い、新しい登録項目と新記載用紙が完成した。5 年ごとの追跡調査の期間を考慮し、新記載用紙による登録は 2011 年登録 (2012 年集計) から開始されている。

- ・登録事業の統一化

平成 24 年度小児がん全国登録連絡会議開催 (12 月 2 日) 前田、田尻が出席

1) 小児外科学会と小児血液・がん学会の全数把握登録との連携については登録時のずれのため、困難であった事を説明した。

2) 学会中の評議委員会で、日本小児血液学会疾患登録と日本小児がん学会全数把握登録の一本化および予後調査を含める事が決まった。この事業と小児外科学会悪性腫瘍登録事業との連携を進める必要があるため、小児外科学会からこの事業に委員を参加できるように要請した。

3) 他の厚労省「小児がん医療・支援の提供体制のあり方」や経産省「小児がん長期ケア事業」などの事業への登録の負担を減らす様な工夫についての提案があった。

- ・登録データの利活用について

今回の追跡調査の内容を含め、登録データを 2 次利用した学会発表、論文作成に関して、理事会審議などの正規の手続きを踏んだ上で積極的に行っていくことが確認された。

* 登録データの 2 次利用による学会発表記録(2012 年度分まで)

第 54 回日本小児血液・がん学会、横浜、2012/11/30-12/2

マスキング休止による本邦神経芽腫臨床像の変化 —小児外科学会悪性腫瘍登録データの解析より—

第 49 回日本小児外科学会、横浜、2012/5/14-16

神経芽腫マスキング休止後の臨床像の変化 —小児の外科的悪性腫瘍登録

データの解析よりー

第 18 回日本がん検診・診断学会、東京、2010/7/16-17

登録データからみたマスキング休止前後の神経芽腫臨床像の変化

(6) 学術・先進医療検討委員会報告

濱田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

・本学会の学術資料に関する収集・調査分析と報告

1) 総会演題集の作成 (毎年追加作成)

第 48 回と第 49 回学術集会の演題集をホームページに掲載した。

2) ビデオライブラリー (デジタル化) の作成

第 49 回学術集会のビデオセッションで発表されたビデオの中から、優秀ビデオ 10 題を選出してホームページに掲載し動画配信した。第 47 回、第 48 回分と合わせて 30 題の優秀ビデオが閲覧可能である。

3) 文部科学省・厚生労働省・日本学術振興会科学研究費の申請及び採択状況

平成 24 年度のアンケート回収結果

国立大学 34 施設中 34 施設 100%

私立大学 33 施設中 33 施設 100%

大学以外の施設 78 施設中 78 施設 100%

・会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可

新規に承認したアンケート

1) 九州大学小児外科 田口智章先生、東北大学小児外科 仁尾正記先生からの厚生労働科学研究費 難治性疾患等克服研究事業「小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成」田口班「非胆道閉鎖症新生児乳児胆汁うっ滞症候群」全国調査

2) 日本小児 IBD 研究会 順天堂大学医学部小児科 清水俊明先生からの「小児期発症炎症性腸疾患における最新治療の実施状況に関する全国調査」

承認したアンケート結果のホームページ掲載

1) 群馬県立小児医療センター 山田佳之先生からの「小児好酸球性食道炎の患者全体像の把握と診断・治療指針の確立に関する研究」(平成 22 年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業)

2) 三重大学消化管・小児外科 内田恵一先生からの「手術部位感染予防策に関するアンケート調査報告」

3) 九州大学小児外科 田口智章先生からの「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への適応に関する研究」

4) 九州大学小児外科 田口智章先生からの「Hirschsprung 病類縁疾患の現状調査と診断基準に関するガイドライン作成」

・先進医療の情報収集および会員への情報提供

1) RCT 論文の紹介

第三期の検索として、2009～2011 年の論文から新規に 21 の RCT 論文を選んで要約を行った。さらにこの期間に国際医学雑誌に掲載された小児外科関係の論文の傾向などについて貴重な重要な情報を提供している 3 論文も加え、本年度は 24 編の要約を行ないホームページに掲載した。現在全 48 論文の要約を掲載中である。

2) 新生児消化管穿孔の実態調査について

前委員会において、『超低出生体重児における消化管穿孔の実態調査』が、新生児栄養フォーラムとの共同で 2003 年から 2007 年の 5 年間の症例を対象になされた。今回 5 年が経過したため第 2 回目の調査を計画し、超低出生体重児を含む新生児を対象として行う予定で準備中である。

・当委員会が関係するホームページの改訂

1) 学術集会演題集

機関誌の電子ジャーナル化が始まったことと、これまでの機関誌がホームページから検索できるようになっていることから、学術集会の演題集作成の役割は済んだと考えられる。これまでの演題集はホームページに残すが、第 50 回分から演題集の作成は行わない。

2) 学術ガイドラインリンク集

5 年以上の古いものや小児外科と関連の少ないものは削除していく。

現在、新規掲載に向けて準備中で必要な許可を各学会、研究会に依頼中である。

3) 先進医療に関する報告

削除はしない。5 年以上経過している報告については新しく改訂していく。

4) 学術アンケート結果は 5 年以上経過したものなど古いものは削除する。

5) ビデオライブラリーリスト

古いビデオリストは貸出依頼もなく入手も困難なため削除する。

(7) 倫理・安全管理委員会報告

蕪澤担当理事より、以下の通り報告、提案され、承認された。

・医療倫理・安全管理講習会

1) 2012 年 5 月 15 日 (火) に第 5 回講習会をパシフィコ横浜アネックスホール (学会第一会場) にて開催した。公益財団法人 日本医療機能評価機構理事 後 信 先生に「医療事故、ヒヤリ・ハットの情報収集による原因分析、再発防止と無過失補償による紛争の解決について」と題してご講演をいただいた。

2) 2013 年 5 月 31 日 (金) に第 6 回講習会を学術集会第 2 日目の 17:00～18:00 まで、京王プラザホテル第一会場にて開催予定である。東北大学大学院法学研究科教授 水野紀子先生に「日本における児童虐待への法的対応とその問題点」と題してご講演いただく予定である。

- ・利益相反小委員会

利益相反小委員会において、利益相反に関する指針を作成し、理事会の承認後、平成24年5月16日より施行開始となった。よって、時限的に設けられた本小委員会は解散し、常設の利益相反委員会が設置され運営されることとなった。

- ・小児外科関連の調査研究

小児外科勤務医を対象に「小児外科勤務医の勤務状況に関するアンケート調査」を実施し、その結果を「日本小児外科学会雑誌, 48:975-979, 2012」に掲載した。

(8) 小児救急検討委員会報告

松藤担当理事より、以下の通り報告、提案され、承認された。

- ・PALS 講習会について

- 1) 第49回日本小児外科学会学術集会における PALS 講習会 (第3回)

日時：平成24年5月25日, 26日 場所：東機賢

応募人数：計26名 (学会員17名、非学会員9名)

- 2) 第50回日本小児外科学会学術集会における PALS 講習会 (第4回)

応募者は14名(このうち学会員9名)と募集定員にみたなかったため開催中止とした。

- ・小児救急セミナーについて

- 1) 第1回小児救急セミナー

主題：「外傷による小児主幹管損傷 –あなたならどうする?–」

日時：第49回小児外科学会学術集会 (5月13日) 場所：横浜 参加人数：97人

- 2) 第2回小児救急セミナー

主題：「上気道閉塞救急症例に対する処置と治療」

日時：P S J M 秋季シンポ (11月1日) 場所：静岡 参加人数：110名前後

- 3) 第3回小児救急セミナー (予定)

主題：「小児肝外傷」

日時：第50回小児外科学会学術集会 (5月30日) 場所：東京

- ・東日本大震災支援活動報告 (2011年秋季シンポジウム雑誌上に記載された分) を学会ホームページにアップ (平成24年9月10日)

- ・重篤な小児救急患者 (or 小児外傷患者) の搬送状況の疫学調査：我が国の小児外傷の現状と小児外科医の役割について

川崎、大阪、奈良、などの過去5年分の消防局のデータを収集、現在分析中

- ・市民公開講座へのサポートについて

- 1) 第48回日本小児外科学会近畿地方会 市民公開講座

日時：平成24年8月26日 (日) 場所：大阪市立阿倍野市民学習センター

参加者60数名、蘇生実習48名

- 2) 奈良救急医療懇話会 市民公開講座

日時：平成24年7月21日 (日) 場所：奈良市公会堂

蘇生実習 24 名

・その他、関連学会との連携

1) 小児救急医学会

①ガイドラインの作成：急性胃腸炎（靄）、虫垂炎（浮山）

②第 7 回小児救急医療ワークショップ in 北九州

日時：平成 24 年 9 月 22 日 場所：北九州 演題：小児の外科系救急疾患
—外傷を中心に、初療から intensive care まで（講師：米倉）

③第 3 回日本小児救急医学会教育セミナー：逆瀬川セミナー（講師：黒田、浮山、米倉）

日時：平成 24 年 12 月 8, 9 日 場所：仙台

④「小児救急・蘇生学の理論と実践」review

⑤災害医療委員会（米倉）

2) 日本周産期新生児医学会 災害対策委員会（米倉）

3) 日本救急医学会

PECEP (Pediatric Emergency Care and Evaluation for Physician) の Web 開催にあたり、コースマニュアルとして「小児救急ストラテジー」の利用を小児救急医学会と小児外科学会は許可した。

(9) データベース委員会

前田担当理事より、以下の通り報告・提案され、承認された。

・2011 年度 NCD 登録症例に関して作成するアニュアルレポートの項目についての検討を行い、理事会に答申した。理事会での検討結果をふまえて、最終確認し、NCD 事務局へ連絡した。

・第 13 回 NCD 運営委員会・専門医制度委員会合同会議

1) 2011 年症例の登録報告

◆登録締め切り後の修正：診療科から修正希望があった症例について個別に審議し、許可されたものは指定日時に修正を行っていただいた。新規追加については認めない。

◆専門医申請：一般利用者：集積した症例データを専門医申請に活用するシステムを運用中。

学会事務局：事務局機能を開発中。生データを出すことなく、セキュアな環境下のもと活用。

参加施設の母数の意味と各診療科における登録症例の正確性について質問があった。日本外科学会の認定施設、関連施設を合計した数を上回っているため、現在、NCD に参加している施設で外科系の診療を行っている施設はほぼ網羅できているのではないかと。各学会が独自に行っている施設調査と NCD 登録症例とを比較することはできるだろうが、NCD 単独で各学会が求める施設、診療科単位の正確性検証は、現状難しいのではないかととの意見があった。

2) 2013 年に追加・修正・削除する術式について

2013 年の NCD 術式は、外保連試案第 8 版との整合性を検証したうえで使う旨の説明があ

った。整合性検証については各領域への検証依頼後、2012年6月末締め切り。

3) 施設訪問について

海外の audit 実施状況を参考とし今年 audit を予定しているのは、外科共通項目（13項目）で、参加診療科（約5,000）から選ぶ。

4) 各領域の Annual report 作成について（データ分析依頼の具体的内容の確認）

NCD のデータにおいて2階にあたる部分は、当該領域に使用権が帰属しており、外科共通項目部分は、すべての領域で共有することになっている。一方で、領域を横断する集計の場合は、領域間での調整が必要となる旨の説明があった。つぎに集計費用は、外科共通項目から集計できる部分は、NCD 負担（集計のプログロム化）とし、次年度以降で各領域が独自に改訂を要望した場合、その部分は各領域で負担する。後藤委員から、消化器外科領域で現在実装している膵癌登録に加え、将来的には他のがん登録も厚労科研費等を活用し、実装を考えている旨の報告があった。

・2013年度NCD登録手術術式に関して

追加修正削除する術式を検討し、NCD事務局へ連絡した。

肥厚性幽門狭窄症手術

腹壁形成術（腹壁破裂、臍帯ヘルニア）

漏斗胸バー抜去術

食道バンディング

鎖肛手術（PSAPR）

中心静脈カテーテル抜去術 を新たに追加するように要請した。

・臨床データベースの利活用について

1) 多施設共同研究の審査の依頼（研究代表者：東京大学 岩中 督）

小児における内視鏡手術の実態調査を兼ねた、NCD を利用した多施設共同研究の実施について

小児外科領域のNCDデータベースを利活用についての審査依頼であったため、データベース委員会にて審査し、理事会に意見を上申した。

2) 厚労科研申請1件あり、承認した。

厚生労働科学研究費補助金：地域医療基盤開発推進事業：小児救急医療体制のあり方に関する研究（25210101） 研究代表者：前田貢作

・専門医制度申請のオンラインシステムが稼働（申請期限を3月31日とした）

しかしながら、すぐに不具合が見つかり、一部の機能は制限。また、専門医、指導医の新規申請の期限を4月30日まで延長した。（専門医制度委員会との調整）

さらに、NCD データから小児外科学会へのデータ移行に関する機能上の不具合が見つかり、年次報告の症例集計の締め切りを5月10日まで延期せざるを得なかった。最終的には6月24日に開催される専門医制度施設認定委員会にて検討の予定。

(10) ワークライフバランス検討委員会

窪田担当理事より、以下の通り報告・提案され、承認された。

・小児外科医のワークライフバランスに関するアンケート調査

さまざまな立場にある学会員のワークライフバランスに関する意識や現状、各施設でのキャリア継続支援の現状を把握することを目的とするアンケート調査を行うことを決定した。アンケートは全会員宛のものと施設代表者宛のもの2種類を電子メールで行うこととし、内容について理事会で承認された。

＊ アンケート集計の守秘性（匿名性）への対応について

電子メールでの返信という方法をとると、送信者の匿名性が保持されず正しい回答が得にくい。また、回答数が減少することが危惧された。この点について個人情報守秘の点から、回答の返信先を学会事務局とし、学会事務局から担当理事宛てにファイルを転送するというシステムで行った。

アンケートの集計結果については、小児外科学会雑誌および小児外科学会ホームページ上に掲載予定。

6) 理事長報告について（田口理事長）

田口理事長より、評議員会における理事長報告の内容につき説明があり、また、仁尾副理事長より総合調整委員会報告の内容につき、説明があり、了承された。

7) 専門医制度委員会報告（黒田専門医制度庶務委員長）

黒田専門医制度庶務委員長より以下の報告があり了承された。

(1) 施設認定委員会審査結果報告

■新規申請

認定施設 申請5施設, 承認4施設, 却下1施設

(却下理由: 症例数不足)

特定施設 申請1施設, 承認1施設

教育関連施設 申請8施設, 承認7施設, 却下1施設

(却下理由: 症例数不足)

■更新申請

認定施設 申請31施設, 承認31施設

教育関連施設 申請34施設, 承認32施設, 却下2施設

(却下理由: 新生児症例数不足)

■年次報告書(2010年分)

審査件数144施設

認定施設89, 教育関連施設53, 特定施設2

(2) 専門医認定委員会審査結果報告

■指導医新規

申請17名, 合格12名, 却下5名(却下理由: 原著不足)

■専門医新規

申請 21名, 合格 16名, 却下 5名 (却下理由: 論文不足)

■ 専門医筆記試験

国試方式 80問 140分 委員会方式 20問 40分

受験者 61名 合格者 45名 (73.7%)

(3) 専門医制度諸規則改正について

改正内容につき説明があり、また、改正内容に関し事前に意見募集をしたが、特に意見はなかったことが説明され、承認された。

8) 次期理事/次期監事/次期副会長選任について

小室庶務委員長より、説明があり、了承された。

9) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成25年6月1日(土) 12:00~13:00 京王プラザホテル本館42階 御岳にて開催することが確認された。

10) 50周年記念事業について

土岐監事より、次回の記念事業(75周年など)の際には、記念事業は学会本体が担当し、学術集会事業は学術集会が担当することを明確にし、収入や費用負担もはっきりと棲み分けできる方法で運営することが提案され、了承の上、申し送り事項とした。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____